

釧路築港要覽

一 釧路港修築ノ必要

釧路港ハ北緯四十二度五十八分東經百四十四度二十一分ニ當リ本道東海岸唯一ノ要港ニシテ恰モ西海岸ニ於ケル小樽港ト粗々同一ノ地位ヲ有シ山河自然ノ地形上ト勝釧路ノ二國及北見國ノ一部ニ對スル海陸運輸交通ノ接續點トシテ最モ形勝ノ地位ヲ占ム其直接後方地域タル十勝釧路ノ二國ハ總地積千百里ヲ有シ農耕牧畜及林業經營等ノ適地多ク亦石炭ノ蘊蓄ニ乏シカラス北見國ノ南半ト相俟テ水陸ノ利源ニ富ミ將來少クモ人口百萬一箇年生産額五千萬圓内外ニ達スルコトヲ得ヘク輓近鐵道ノ開通ト共ニ拓殖ノ進歩頗ル顯著ナルモノアリ從テ其輸出入貨物ヲ吞吐スヘキ靜穩ナル港灣ノ必要年一年其度ヲ高メツ、アリ然ルニ釧路港ノ地形タルヤ西南全ク太平洋ニ向テ開敞シ南風一タヒ起ルヤ激浪忽チ襲來シ船舶ノ碇繫ヲ至難ナラシメ海陸ノ連絡全ク杜絶スルニ至ル此現象ハ年間ヲ通シテ頻發スルノミナラス釧路川ヨリ吐出スル多量ノ土砂ハ常ニ河口ニ游動シテ河口寄洲ノ位置ヲ變轉シ舢舨ノ出入最モ困難ヲ極メツ、アリ港灣ノ不良ナルコト斯クノ如クナルノ結果船舶ノ出入貨物ノ揚卸等悉ク不確實ニシテ爲メニ諸般ノ取引ヲ不利不安ノ狀態ニ陥ラシメ延テ後方地域ノ企業ヲ躊躇セシメ若シクハ既設交通機關ノ効用ヲ薄弱ナラシムル等其拓殖上及釧路港發展上ニ及ホス所ノ障礙實

ニ舉ケテ數フヘカラス是レ釧路港ノ修築ハ一日モ等閑ニ付スヘカラサル所以ニシテ加フルニ同
 地方ノ航路ハ冬春ノ二季ニ在リテ風浪概ネ狂暴夏秋ノ候ニ在リテハ濃霧ノ去來日夕常ナク航海
 困難ヲ極メ安全ナル避難港ヲ要スルコト甚タ切ナルモノアルニ拘ラス室蘭以東本港ニ至ル百有
 餘里ノ間並ニ本港以東根室一帯ノ沿岸到ル所トシテ一ノ良港アルナク釧路港ノ修築ハ此ノ方面
 ノ避難港トシテ亦最モ必要ナルモノトス

二 沿革

此地元ト蕞爾タル土人ノ一部落ニ過キサリシカ天明年間松前藩ノ治下ニ屬シ寛永ノ初メ漁場ヲ
 開設シ安政ノ頃移民ノ來住スルモノアリ是ヨリ漸ヲ逐フテ市街ノ體裁ヲナシ明治十三年初メテ
 小學校及病院ヲ設立シ踵テ同十七年根室札幌間ノ電信開通スルニ及ヒ釧路電信局ノ開設セラレ
 ルアリ同二十三年特別輸出港トナリ同四十年本道ノ幹線タル函館釧路間ノ鐵道開通シ各種興業
 會社及銀行ノ起ルアリ海陸運輸ノ業亦頓ニ其面目ヲ更メ大正二年中學校ノ開設ヲ見ルニ至レリ
 今明治四十三年以後ノ人口出入船舶ノ噸數及輸出入貨物ノ價格等ヲ舉クレハ左ノ如シ

年次	人口	出入船舶噸數	輸出入額
四十三年	二二,三五五 _人	一〇,四五,七四 _噸	入 三,九三二,五二二 _円 出 四,三四五,五一八
四十四年	二四,七五六	一,二〇〇,七七 _噸	入 四,八六五,五六五 出 四,三九五,六一四
大正元年	二七,六六二	一,三五〇,七一 _噸	入 五,二八〇,六六七 出 五,五七九,九四〇

四年	三年	二年
二八、九六四	二八、二八六	二七、九四三
一、四五五、三七四	一、八〇二、三〇九	一、七〇六、四四八
入 出	入 出	入 出
調査 未了	五、四四八、五五三 五、五五三、八二三	五、一〇七、七六〇 五、七八五、二二三〇

明治十九年開拓使ヲ廢シ北海道廳ヲ置カレ岩村通俊ノ來リテ長官ノ任ニ就クヤ夙ニ本道樞要港灣ノ修築ニ見ルトコロアリ雇工師米人めくニ命シテ之レカ調査計劃ノ任ニ當ラシム本港亦其一ニ在リ是レ實ニ本港修築計劃ノ嚆矢ナリトスめくノ計劃ハ翌二十年中既ニ之カ成案ヲ見ルニ至リタルモ其實施ハ固ヨリ容易ノ業ニ非ス空シク數年ヲ經過シ同三十一年時ノ長官男爵園田安賢技師工學博士廣井勇ヲシテ再ヒ精密ナル本港ノ調査ヲナサシメめくノ設計案ヨリモ稍々大規模ノ計劃ヲ立テ同三十三年本道十年計劃ヲ定ムルニ當リ本港修築費モ亦其一ニ加ヘ明治三十六年度ヨリ四十三年度ニ至ル八箇年ヲ以テ其事業ヲ完成センコトヲ企圖セシモ帝國財政ノ狀態ハ容易ニ之レヲ豫算ニ編入スルコトヲ許サス同三十九年第二十三帝國議會ニ際シ之ヲ提議シタルモ亦不幸ニシテ其協賛ヲ經ルニ至ラス同四十年園田安賢其職ヲ退キ河島醇來リテ長官ノ印綬ヲ帶フルヤ技師關屋忠正ニ命シテ更ニ之レヲ調査セシメ既定ノ計劃ヲ修正シテ第二十五議會ニ提出シ其協賛ヲ經テ明治四十二年度ヨリ之レカ實施ニ着手スルニ至レリ

三 修築設計概要

港形ハ東北ノ二方陸地ヲ以テ圍繞シ釧路川其ノ港内ニ注ク西南ハ全ク太平洋ニ向テ開敞シ南風一タヒ起ルヤ激浪忽チ襲來シテ海陸ノ交通全ク杜絶ス故ニ此方面ニ於テ防波堤ヲ築造スルノ必

要アリ

港内ノ水深ハ河口ニ於テ僅カニ二尺漸次沖合ニ至ルニ隨ヒ其深サヲ増シ四十尺以上ニ達スト雖モ其港心ハ概ネ二十尺内外ニシテ大船ノ碇繋ニ適セス鋼路川ノ河口ハ概ネ漂砂ノ填塞スル所トナリ舢舨ノ出入頗ル困難ヲ極ム故ニ共ニ浚深シテ適當ノ水深ヲ保タシムルノ要アリ

港内ニ流入スル鋼路川ハ其下流ニ於テ比較的緩流ニシテ洪水ニ際スルモ甚シク暴漲スルコトナシト雖モ其支流阿寒川ハ洪水水位高ク沿岸至ル所缺壞ノ狀アルニ徴スルモ常ニ多量ノ土砂ヲ流出スルヲ知ルヘシ

現時鋼路河口ニ堆積スル土砂ハ概ネ阿寒川ヨリ來レルモノトス故ニ先ツ阿寒川ノ河身ヲ變更シテ之ヲ港外ニ放流スルニ非サレハ河口ノ浚深決シテ其效果ヲ收ムルコト能ハス

港内ノ潮流ハ鋼路河口附近ヨリ西北ニ流ルハ一定ノ流路トス故ニ河口附近ノ漂砂ハ北方ニ移動スルハ既往ノ實驗ニヨリ確實ナリト雖モ此傾向タル必スシモ防波堤完成後ニ於テモ同一ナリトハ信シ難キヲ以テ阿寒川付替ト共ニ防砂堤ヲ築キ以テ相當豫防ヲ爲サ、ルヘカラス

前記ノ理由ニ依リ本港修築工事ヲ分テ左ノ四種トス

一 防波堤ノ築設

二 港内及鋼路河口ノ浚深

三 阿寒川ノ付替並ニ導水堤ノ築設

四 防砂堤ノ築設

以上工事ノ外河岸ノ整理棧橋岸壁物揚場等ノ如キ設備上必要ノ工事尙少ナカラスト雖モ是等ハ他日ヲ期シテ計劃スルモノトシ本工事ノ中ニハ包含セス

一 防波堤ノ築設

防波堤ハ釧路燈臺附近西方崖下ヨリ起リ延長四千五百五十尺以テ港内水面四十五萬餘坪ヲ被覆ス將來更ニ千五十尺ヲ延長スルトキハ以テ六十餘萬坪ヲ被覆スルコトヲ得ヘシ其構造ハ分テ三種トス

一ハ礁上水淺キ所ニ築造スルモノニシテ直ニ混凝土ヲ場所詰トシ二ハ礁上稍々水深キ部分ニシテ袋詰混凝土ヲ以テ礁上ノ凹凸ヲ平ニシ其上ニ混凝土塊ヲ積疊シテ干潮面上二尺ニ達セシメ其上ヲ混凝土場所詰トシ三ハ水深キ部分ニシテ捨石ヲ以テ基礎ヲ造リ其上ニ混凝土塊ヲ積疊シテ干潮面上三尺ニ達セシメ其上ヲ混凝土ヲ以テ場所詰トス而シテ使用スル塊ノ重量ハ其大ナルモノニ於テ每個四十五噸以上トス

二 港内及釧路河口ノ浚渫

浚渫ハ分テ二區トシ一ハ干潮面以下二十六尺トシ他ハ同シク十二尺トス前者ハ港心面積約七萬坪ニシテ専ラ船舶碇繫上安全且ツ利便ヲ完フスルヲ目的トシ他ハ釧路河口附近面積五萬餘坪ニシテ解船及小蒸汽船ノ航通ニ支障ナカラシムルヲ目的トス而シテ其浚渫シタル土砂ハ凡テ港外支障ナキ場所ニ投棄スルモノトス

三 阿寒川ノ付替並ニ導水堤ノ築設

釧路川ノ支流阿寒川ハ土砂流出ノ一大禍根タルコト明瞭ナルヲ以テ之レヲ釧路川ヨリ分離シ港外ニ放流スルモノトス其掘鑿延長約一千間河口ニ於ケル敷幅三百尺トス尙新河口ニハ左右延長千九百尺ノ導水堤ヲ築設シ波浪ノ爲メ漂砂ノ河口ヲ填充スルコトナカラシム其構造ハ捨石ヲ以テ堤體ヲ造リ上ニ重量十噸以上ノ混凝土塊ヲ沈置スルモノナリ

四 防砂堤ノ築設

防砂堤ハ釧路河口右岸ヨリ西南ニ向ヒ突出スルモノニシテ延長千九百三十尺以テ漂砂ノ港内

ニ闖入スルヲ防キ併セテ河口一帯ノ水面ヲ被覆ス其構造ハ干潮面上二尺ニ至ルマテ捨石ヲ施シ之レヲ基礎トシ其上ニ混凝土ノ場所詰ヲナスモノトス

以上工事ノ施設ニ要スル豫算金額左ノ如シ

金四百七十五萬九千五百四十一圓也

内

金二十五萬九千四百四十七圓

金二十萬三千八百七十圓

金七十三萬四千七百四十八圓

金二百七十七萬九千七百八十八圓

金二十二萬七千七百三十七圓

金三十一萬一千二百二十三圓

金二十四萬二千八百二十八圓

四 工事ノ現況 (大正五年四月)

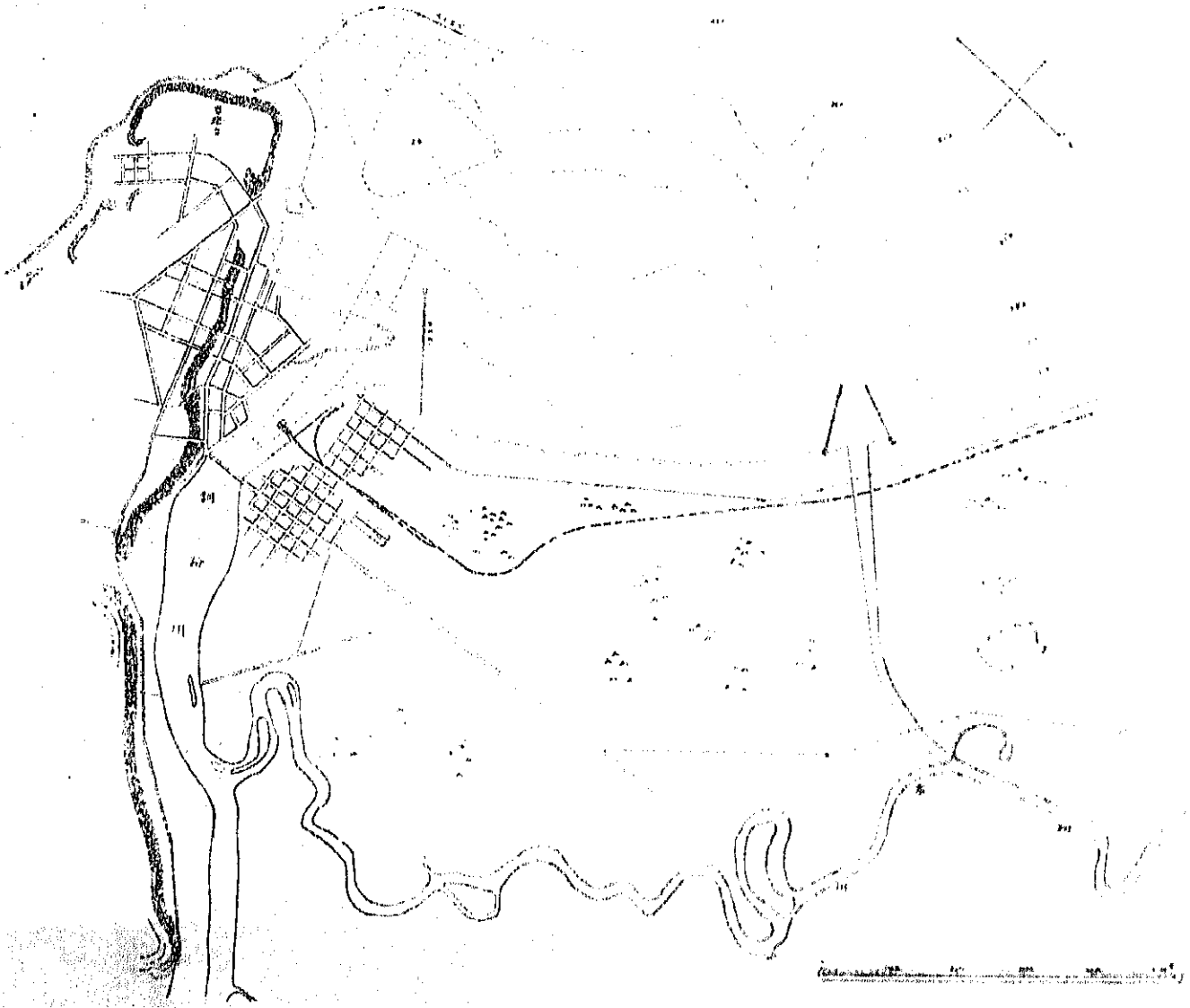
前記工事ハ明治四十二年度ヨリ大正九年度ニ至ル十二箇年ノ繼續トシテ起工シタルモノナルモ其後政府財政ノ都合上豫期ノ如ク工費ヲ支出スル能ハス繰延トナリタルモノアルヲ以テ多少ノ延期ハ免ル能ハサルモノアルヘシ起工以來現在ニ至ル工程ヲ概記スレハ左ノ如シ

一 工場設備

明治四十二年起工ト共ニ工場用地トシテ新ニ面積一萬八千餘坪ノ海面ヲ埋立テ別ニ土地二千坪ノ借入ヲナシ事務所廳舍、倉庫、混凝土混合所、塊製造場、發電所、修繕工場等凡テ必要ナル設備ハ之レヲ完成セリ

防	阿	浚	防	器	工	事	總
砂	寒	深	波	具	場	務	額
堤	川	溝	堤	機	費	費	
費	付	費	費	械	費	費	
	替			費			
	費						

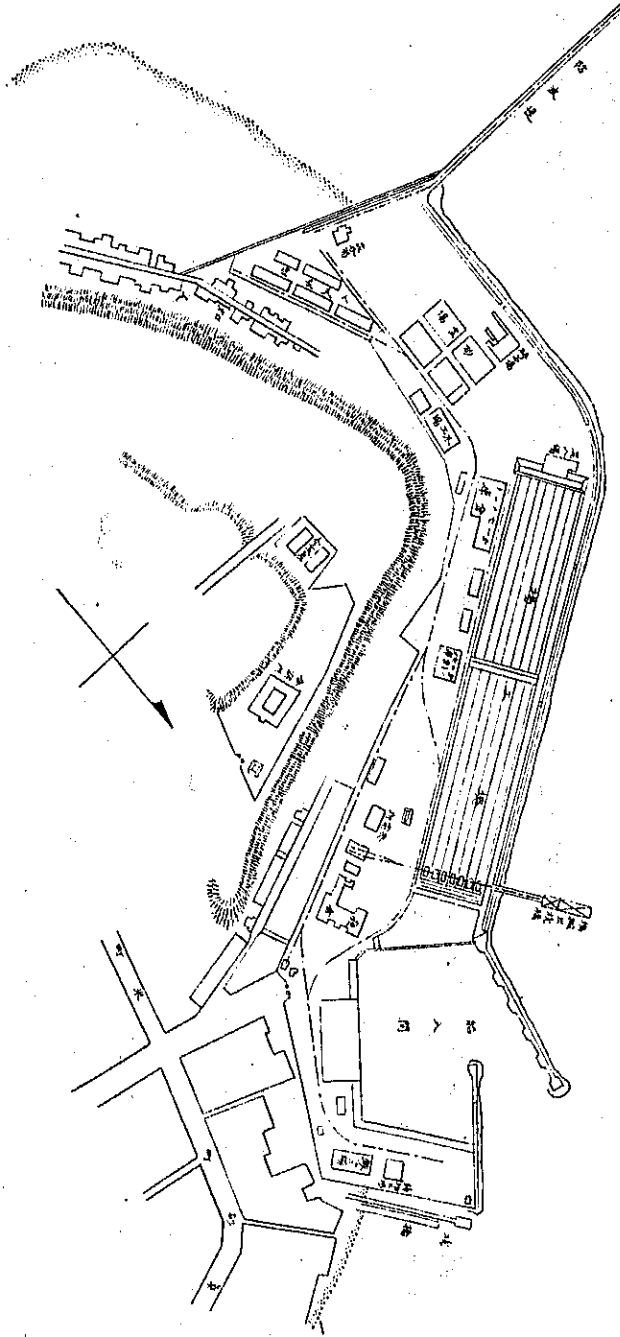
鋼路港修築平面圖



縮尺三萬分一

劍路築港工場之圖

縮尺五千分之二



正木鐵道建設三卷第一號附圖

今後事業ノ進行ト共ニ多少新設増築ノ已ムベカラサルモノアルヘシト雖モ大體ニ於テ完備セ
 リト云フヘシト然レモ其ノ間ニ於テ亦多ク新設増築ノ必要ナルモノアリト云フヘシト雖モ大體ニ於テ完備セ
 一 器具機械

材料運搬船曳船小蒸汽船浚渫船混凝土混合機軌道起重機浮起重機其他工事用必要ナル器具機
 械ハ概ネ之レヲ購入設備セリ

一 防波堤ノ築設

防波堤ハ已ニ二千四百五十尺ヲ竣工シタルヲ以テ餘ス所千七百尺ナリ

一 浚渫工事

港内及河口ニ於テ已ニ約六萬餘坪ヲ浚渫シタルモ阿寒川付替工事ノ完成セサル現狀ニ於テハ
 土砂ノ流下スルモノ多ク隨テ浚渫スレハ從テ埋没シ未タ其效果ヲ示スニ至ラス河川付替工事
 ノ完成ヲ俟チ大ニ本工事ヲ進工スルコト、シ現在ニ於テハ僅カニ舢舨航路ヲ維持スルニ止ム
 一 阿寒川付替工事

阿寒川付替工事ハ最速成ヲ要スル所ナルヲ以テ其工ヲ進メ已ニ鐵道線路ノ上流ヲ殆ト竣工セ
 シメタリ新設ヲ要スル鐵道橋ハ大正五年九月迄ニ完成シ同年内ニハ新川ニ通水セシメントス
 一 防砂堤工事

基礎捨石ハ頭部ヲ除ク外殆ト凡テヲ投入シ混凝土場所詰ハ基點ヨリ九百尺ヲ竣工セリ

修築事業ノ施工ニ就キ最モ困難ヲ感スルハ作業日數ノ僅少ナルコトニシテ例年五月中旬ヨリ八
 月下旬マテハ稍々海上靜穩ノ日多キモ其他ハ風浪多クシテ作業ニ適スル日極メテ少ナク十一月
 中旬ヨリ翌年三月マテノ間ハ氣溫寒冷ニシテ混凝土作業全ク不可能ナリ工事材料品中最モ多量
 ヲ要スルハ石材砂利及砂ニシテ其内砂ハ沿岸至ル所ニ採集スルヲ得ルモ石材砂利ハ附近ニ適當

ノモノナク現在於テハ共ニ東方三十三海里ヲ隔ツル厚岸方面ヨリ海上之レヲ運搬ス(完)

北海道線第一空知川橋梁災害應急工事概況

工學士 大 村 卓 一 報

目次

一 概説

一 應急工事

(イ) 工事方法撰擇

(ロ) 二百呎鋼構桁扛上方法

(ハ) 扛上後横ニ移動方法

(ニ) 陸岸ト二百呎鋼構桁ノ取付

(ホ) 二百呎鋼構桁修繕

二 開通後ノ補強工事

三 應急及補強工事費額

一 概説

本年五月七日ヨリ俄ニ氣温上騰シ同日夜半ヨリ八日朝ニ亘リ暴風雨トナリ空知川俄ニ増水シ第一空知川橋梁附近ニ於テハ平水位ヨリ約八尺五寸ノ大出水トナリ兩岸ニ氾濫シ水勢一層加ハリ